

個別ケース支援について

函館市地域包括支援センターときとう
社会福祉士 長谷山 哲平

虐待を受けていた高齢者を関係者間で連携し支援した事例

1. 事例紹介 ①基本情報

- 氏 名：A氏
- 性 別：女性
- 年 齢：80歳
- 経済状況：生活保護受給
- 既往歴：認知症、適応障害、糖尿病
反社会性パーソナリティ障害疑い
(支援開始後に病院受診し診断)
- 要介護度：要介護1



1. 事例紹介 ①基本情報

- 家族構成
結婚歴は4回あるも子どもは無し。
両親も他界しており身内は一切いない。
- 成育歴
 - 20代の頃から売春を生業として生活してきた。
 - 過去に覚せい剤等の使用により数回の逮捕歴あり。
 - 高齢になってからは過去の仕事仲間と交流を持ちながら生活を続けてきた。

1. 事例紹介 ②相談のきっかけ

生活支援課担当ケースワーカーより相談

- 「電気やガスが止まっている世帯がある。介護や福祉が必要だと思う世帯なので、確認してほしい」

訪問し面談により分かったこと

- 「Bさんに叩かれる。お金を持っていかれる。
抵抗すると髪の毛をひっぱられる」
- 「Bさんのいないところで、暮らしたい」

1. 事例紹介 ③訪問して分かったこと

昔から、本人（Aさん）を含め仲間内で金銭の貸し借りが行われていた。

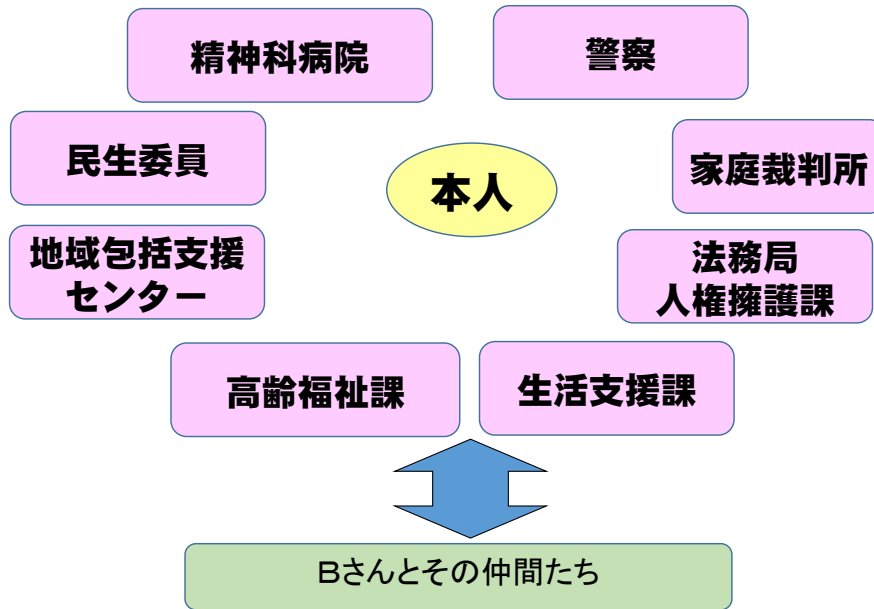
Aさんは徐々に身体能力と判断能力が低下したことで金銭管理ができなくなっていた（誰との貸し借りなのか等）。

お金を貸した人物はBさん以外にも複数いることが予想され、借用書もない状態で、言われるがままに相手へ金銭を渡していた。

1. 事例紹介 ④地域とのつながり

- 町会行事などの参加はなし。
- 民生委員は、独居高齢者ということで、心配し過去に何度か訪問してくれていた。しかし、訪問のたびにB氏やその友人達が、「Aの面倒は自分達がやっている。困ったことはないから大丈夫。訪問してくれなくてもよい。」と訪問を拒否されていた。

1. 事例紹介 ⑤支援者の関係



2. 支援の経過

- 高齢者虐待ケースと判断。
- 各関係機関と連携を取り、本人の希望する介護施設へ入所することができた。
- 現在は、必要な介護や医療を受けて元気に暮らしている。
- 現在、B氏からA氏のことについて関係機関への問い合わせは無い。
※支援時は頻繁に問い合わせがあった。

3. 支援中の課題

- 施設入所にあたっての契約。
- 今後の財産管理やその他の支援。
- Aさんへ対して権利侵害をおこなっていた友人達からの接触時の対応。
- 他のケースで町をまわる包括職員へのリスク。
「お前（長谷山）夜道気をつけろよ。」等。

4. 社会資源の活用

- 市町村長申立てによる成年後見制度の利用。
- 受入れをしてくれたグループホームとの連携や継続したフォロー体制の構築。
- 関係機関との連携（定期的なカンファレンス等）。
- 権利侵害者からの問い合わせに対しての一貫した対応の強化。
- 秘密保持、個人情報の保護。

5. まとめ（今後の課題） **センターでの取り組み**

- 被虐待者を守るための、成年後見制度利用について円滑な調整（センター職員の知識を向上させる）。
- 権利擁護業務について理解を示してくれる事業所との連携。
- 地域における高齢者虐待の理解。
- センター職員の力量のさらなる向上。